

帯小の窓



帯広市立帯広小学校
Obihiro Obihiro
Elementary School
平成29年12月 8 日
NO 23

学校力向上

「教育の成果を子どもの姿で示し 家庭・地域との信頼ときずなをさらに深める」

居心地のよい環境づくり

心と頭と国語力を駆使して～今年度2回目の作文交流～

< 学芸会版 >



参観日の折に見られた方もおられるかと思えます。今年度2回目、2学期の作文交流は「学芸会」がテーマでした。行事の作文はあらずじになりやすく、読み応えのない作文になりがちです。それを改善するのは、日常の国語の授業と関連付けた地道な指導です。文字や漢字を正しく書き、使えることとはもちろん、語彙力を増やすことに加えそれを適切に使える力も必要です。さらに、作文となれば、原稿用紙の使い方や、その表記の約束事も理解する必要があります。それらができた上で、表現のスキルを上げるための技法を身に付けることとなります。総合的な国語力が問われます。作文の学習だけで、基礎となる書く力のたくさんの要素が必要となります。そこに自分なりの考えや感じ方なども入れるとなれば、容易なことではありません。

SNSのように顔文字一つで終わり、とか、言葉を短く省略して終わりというわけにはいきません。「書くことは考えること」という言葉がありますが、事実を的確に伝え、そこに自分なりの感じ方や考え方を入れながら再構成することで、読み手に伝わる作文となります。

今回の交流揭示は、そんな指導の成果や児童個々の努力の跡を揭示しているもので、『なるほど。』と思わせるものやその子なりに『上達したね。頑張ったね。』というものをすべての学級から一点だけ選んでいます。

低学年であれば、生き生きとした表現の工夫、「。」などの活用。高学年であれば、目標を生かした自己との対話や客観的な視点を生かした表現など、それぞれに読み手を惹きつけるものがありました。

学習サポート三々六年対象

十三日(水)・十五日(金)六校時

課題のある単元を少人数指導

本校では、算数の時間に習熟度別少人数指導を全ての学年で日常的に行っています。子どもたち個々の学びを後押しする環境の中で、学習が進められています。担任と二名の担当教員が指導に当たっていますが、学期末に行われる学力向上会議では、算数の単元テストの成果についても検証され、課題となる単元が明らかになります。

今回の学習サポートは、三年生以上の児童を対象に、九九や簡単な四則計算の習熟の点検プレ調査を受けて行われます。

三々六年で、今学期習熟のよくない単元を選び、十三日(水)と十五日(金)の六校時の二時間ではありますが、授業改善チームの三名の先生方にも協力を仰ぎ、五学級それぞれ複数体制で指導にあたります。

確実な習熟のためには、繰り返し学習は不可欠です。



習熟度別少人数指導 2年生 7月

体を動かすことの楽しさを体感～おびひろっ子絆支援事業活用～

エンジョイスports出前授業 1・3・5年生で全校児童が体験終了



風船を使って遊び感覚で 1年



音楽に合わせてスキップ 3年生

体力向上は毎年の学校運営の大きな柱です。今年度、体力向上にかかわり、「自信と関心を生み出す働きかけを」とキャッチフレーズを掲げましたが、運動を身近にするためにも、体を動かすことの楽しさを感得させること、自分でもできる、という自信をもたせることが大事です。17号でお知らせ



相手の陣地に攻め込む遊び 5年

した10月11日の2・4・6年に続き、11月21日（火）にも「エンジョイスports」として、幕別札内スポーツクラブの小田さん・渡部さん・新倉さんの3名に来校いただき、子どもたちがゲーム性のある様々な運動を教わりました。体力作りとともに運動の楽しさを体感することを目的に、すべての子どもが抵抗感なく楽しく参加できるメニューをたくさん用意してくださいました。

運動習慣は日常生活とも密接に関係があり、学校生活や授業時間だけで確立するのは難しいですが、運動にかかわる子どもたちの視野を広げ、すべての子どもが汗をかけるそんな良い機会となりました。



校内授業研（道徳）で
自分の考えを書く1年生
ノートの使い方もしっかりと
たね。



帯広の森で間伐を行う5年生↑
帯広市の環境教育出前・体験授業



教室では環境について担当の方から学ぶ 11月30日（木）

かがや木

子どもたちの成長を見つめる

毎回、子どもたちへの温かい言葉をありがとうございます。



児童が毎朝昇降する階段脇や壁に ↑
ハート型の紙の中に様々なコメントが

写真は、子どもたちの背中をやさしく押す保護者のみなさんの力です。学芸会を終えたお子さんへのひとことが「かがや木」として（緑色のハートの中に書かれている。）掲示されています。本校の言い方にすれば「保護者力」だと思います。このひとことで、どれだけ子どもたちが励まされるか、熟読するに付けて本当に頭が下がります。ありがとうございます。子どもたちの成長は、私たち教育者にとって最もうれしいことです。6月の運動会に続き2回目の依頼でしたが、本当に多くの言葉をお寄せいただき感謝申し上げます。

親心から、日頃できていないことや早くしてほしいことについて目が行きがちですが、子どもたちの自己肯定感や有用感をはぐくむ強い後押しになります。